

事務事業評価シート

1 基本情報

1 基本情報		事業番号	010301010200		事業の種類		4
年度	30	事務事業名	相生っ子学び塾事業	予算事業名	相生っ子学び塾事業	優先度	3
まちづくり目標		健やかな成長と人間力をのばせるまち		担当部局名	教育委員会生涯学習課		
施策名(中)		いつでもどこでも学べる環境をつくる		担当課長	番匠 真由美	担当者名	山本 健太
取組み事項		生涯にわたって学べる体制を整備する		実施計画への記載	無	主要事業の指定	無
実施計画事業名							
根拠法規及び関連法規							
事業の目的	誰のために(具体的に)	市民					
	誰(何)を対象として	市内小学校5, 6年生及び保護者					
	意図(どのような状態にしたいのか)	基礎学力の定着、自学自習の姿勢を身につける。地域の人がボランティア講師として関わることで、地域ぐるみで教育支援を行うことで、子どもたちの健やかな成長を図る。					
	事業の全体年度	事業着手年度	(年度)	事業完了予定年度	(年度)		

2 事業の概要 Do

実施の概要		基礎学力の定着・自学自習の習慣づけを行うことを目的に「現代版寺子屋」として開始。地域のボランティアの参加により、家庭の経済的負担なしで希望者が参加でき、対象を5、6年生とした国語・算数、英語、珠算の講座を実施。				
活動実績	項目	単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度計画
	開設日数(国・算)	回	203	188	180	182
	開設日数(英)	回	126	125	121	126
	開設日数(珠算)	回	18	18	26	27

3 投入資源

3 投入資源		会計区分	一般会計			事業費単位:円			
インプット指標		28年度決算	29年度決算	前年比	30年度決算	前年比	31年度予算	前年比	備考
人員	部長以上職員	0.026	0.028	108	0.028	100	0.029	104	
	参事以下職員	0.380	0.380	100	0.384	101	0.380	99	
	臨時職員	0.688	0.354	51	0.381	108	0.690	181	
支出内訳	人件費	5,005,342	4,236,388	85	4,279,385	101	5,301,484	124	
	事業費	4,491,602	4,108,179	91	4,038,193	98	4,416,000	109	
	合計	9,496,944	8,344,567	88	8,317,578	100	9,717,484	117	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金	1,413,000	1,588,200	112	1,552,000	98	2,055,000	132	
	市債			-		-		-	
	その他	132,000	122,400	93	108,800	89	120,000	110	
	一般財源	7,951,944	6,633,967	83	6,656,778	100	7,542,484	113	
	合計	9,496,944	8,344,567	88	8,317,578	100	9,717,484	117	

※ 事業の進捗状況

項目		28年度	29年度	30年度	31年度	
全体進捗率	事業費累計					
	進捗率					

4 評価指標

【有効性】

指標名1		児童延べ登録数							
指標説明(式)		(国語・算数登録)+(英語登録)+(珠算登録)							
指標単位	区分	28年度	29年度	前年比	30年度	前年比	31年度(計画)	前年比	備考
人数	目標	250	300	120.0	300	100.0	300	100.0	
	実績	289	259	89.6	224	86.5			
指標名2		講座参加率							
指標説明(式)		(国語・算数延開設)+(英語延開設)							
指標単位	区分	28年度	29年度	前年比	30年度	前年比	31年度(計画)	前年比	備考
数	目標	33.3	36.0	108.1	33.3	92.5	33.3	100.0	
	実績	35.7	31.9	89.4	28.5	89.3			

【効率性】

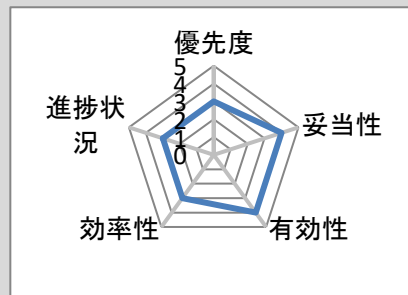
指標名1		児童一人あたりコスト							
指標説明(式)		(事業費＋人件費)÷児童のべ登録数							
指標単位	区分	28年度	29年度	前年比	30年度	前年比	31年度(計画)	前年比	備考
円	目標	41760	35036	83.9	34946	99.7	32392	92.7	
	実績	32861	32218	98.0	37132	115.3			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	28年度	29年度	前年比	30年度	前年比	31年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(30年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	担当課評価
妥当性	目的の妥当性	子どもの基礎学力の向上、自学自習の姿勢を身につけるため、地域のボランティアが関わりながら教育支援を行うことは妥当である。	4
有効性	期待する目標	家庭の経済的負担なしで誰でも希望すれば参加でき、希望者に勉強できる機会を提供できた。	4
	成果の向上	成果について明確な数値はないがアンケートで「集中して取り組むようになった」「英語に興味を持つようになった」などの意見があり、効果が表れている。	
効率性	執行体制の効率性	効果を得るためには学校との連携を拡大していく必要がある。参加児童や保護者からのアンケート結果を参考に講師が定期的に授業の進め方や教材について協議を行い有効な授業形態を作った。	3
	手段の最適性	年々、参加率が微減している中で、特に基礎学力を身につける必要のある子どもや保護者への声かけ等、学校とのさらなる連携が必要である。	
進捗状況	事業計画に対する進捗状況	概ね計画どおりに進捗している。	3

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	成果目標(改善)達成度	年々、参加率が減少している要因の分析と事業の総点検が必要。講師ボランティアの確保。



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた31年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	成果の向上	珠算については、対象を4年生以上に拡大するとともに事業の周知について、学校との連携をさらに図る。

配点	32.5
総合評価	22

(2) 32年度以降の改革改善内容

区分	内容
重点事項	英語が教科になるため、学校と情報共有しながら教材について協議していく。
見直事項	外国語科の導入に伴う、授業時間の増により学び塾の実施体制の調整・協議が必要。
新規事項	
方向	継続 成果 維持 総コスト 維持